

プロジェクト 「日ロのアイデンティティの比較研究」の経過と成果

河原地 英武

The Process and Results of the Project “Comparative Study on Identity of Japan and Russia”

Hidetake KAWARAJI

プロジェクトの概要

趣 旨：現在の日ロ関係は、一見、北方領土問題によって停滞しているかに見える。しかしながら、文明史的視野の上に立ち、また現今の中国の台頭等の国際情勢の変化に照らしてみれば、両国間には多くの共通項、共通利益が存在する。この研究事業は、日ロ双方の知識人を糾合した共同研究会を行い、日ロ関係を軸とした近現代史を眺望し、それによって得られた知見を現下の国際情勢分析に活かすことによって、日ロ外交の行き詰まりの要因についての考察を行い、今後の両国関係の展望を開こうとするものである。冷戦終了から25年がたったいま、国際政治には、新たなパラダイムシフトが起きている。新帝国主義ともいうべき、力の論理が全面に出るリアリズムの時代に入りつつある。このような情勢下において日本とロシアは、国際関係ひいては現代文明世界にいかなる貢献ができるのか答えを見出したいと考えている。

メンバー：

【日本側】

- ・安野正士（上智大学准教授）「第1章、第2章」担当。
- ・河原地英武（京都産業大学教授）「第2章」担当。
- ・池田嘉郎（東京大学准教授）「第3章」担当。
- ・下斗米伸夫（法政大学教授）「第4章」担当。
- ・東郷和彦（京都産業大学教授）「第5章」担当。

- ・隈部兼作（ロシア・ユーラシア政治経済研究所代表）「第5章」担当。
- ・福島安紀子（青山学院大学地球社会共生学部教授）「全体の分析・統括」担当。
- ・中谷真憲（京都産業大学教授）「全体の分析・統括」担当。

【ロシア側】

- ・アレクサンドル・パノフ（元駐日大使、モスクワ国立国際関係大学教授）「序章、第1章、第2章」担当。
- ・コンスタンチン・サルキソフ（元法政大学客員教授）「第1章、第3章」担当。
- ・ドミトリー・ストレリツォフ（モスクワ国立国際関係大学教授）「第4章」担当。
- ・セルゲイ・チュグロフ（モスクワ国立国際関係大学教授）「第5章」担当。

過去の研究会：

- ・2013年3月4日（法政大学）
- ・2013年10月30日（むすびわざ館）
- ・2014年11月5日（東京・アルカディア市ヶ谷）
- ・2015年5月30日（モスクワ国立国際関係大学）

全ロシア語論文の和訳は、山脇大氏（京都大学大学院 経済学研究科 経済学専攻 博士後期課程2年）に依頼し、その訳稿をプロジェクトメンバーが分担して補正した。本紀要に掲載したものは、このようにして成ったロシア側メンバーの提出論文である。